



金城学院大学と包括的連携協力に関する協定を締結しました

東海農政局は、3月12日、金城学院大学（名古屋市守山区）と包括的連携協力に関する協定を締結しました。これまで金城学院大学とは、大学が開催するマルシェイベントに協力し、キッチンカーを使った6次産業化に取り組んでいる事業者の紹介や農政局による食や農業に関するPRブースの出展を行いました。

今後は、本協定の締結を契機に、金城学院大学の皆さんが、農業体験や地域活動を通じて、新しい発想で、持続的な食料システムの実現に貢献してくれることを期待し、相互の人的・知的資源の交流をさらに深め、幅広い分野での連携を加速させていきます。



東海農政局 秋葉局長（左）、金城学院大学 小室 尚子学長（右）

お問い合わせ先 企画調整室 TEL 052-223-4610

連携内容

- 1 教育、研究活動及び技術開発に関すること
- 2 施策の推進に関すること
- 3 人材育成に関すること
- 4 授業や講座を通じて、学生が東海地域の農業・食品産業に関する理解を深めること
- 5 その他両者が必要と認めること



パン作り講座メニュー



パン作りの様子



杉山 修一代表



関連記事はこちら

当日は、協定の締結を記念したパン作り講座を開催し、愛知県産の小麦や米粉、有機野菜を使ったピザ、フォカッチャ、スープを作りました。講座では、食材の提供をいただいた生産者グループ「おおぶニックのWA」（愛知県大府市）の杉山 修一代表から、有機野菜の魅力などについてお話しいただきました。

同大学の学生や卒業生、入学予定の高校生、地域住民など20名以上が参加し、参加者からは、「有機農業についてよく知らなかったが、今回学べて良かった」などの声が寄せられました。

「第3回みどり戦略学生チャレンジ」参加登録を受付中です

東海地方（岐阜県、愛知県、三重県）の高校、大学、専門学校等の皆さん、みどりの食料システム戦略（みどり戦略）に基づく環境に配慮した取組にチャレンジしませんか。

参加登録は、7月31日（金曜日）までです。

●参加対象

- ・学校の授業内の課題、研究
- ・部活動・ゼミ・サークル活動等の取組
- ・学校の垣根を超えたグループによる取組
- ・個人による取組

●こんな取組

- ・化学肥料の低減
- ・フードロスの削減
- ・地域・未利用資源の活用
- ・AIを活用した循環型農業等

第1回の
取組事例



第2回の
取組事例



チャレンジ
の詳細は
こちら



参加登録は
こちら



お問い合わせ先 企画調整室 TEL 052-223-4609



山県市がオーガニックビレッジ宣言を行いました

農林水産省は、有機農業の生産から消費まで一貫し、地域ぐるみで取り組む産地（オーガニックビレッジ）の創出に取り組む市町村を支援しています。

有機農業の産地化を進める岐阜県山県市では、令和7年度からみどりの食料システム戦略緊急対策交付金を活用した取組を実施しており、令和8年3月25日に「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。山県市は、山県市有機農業推進協議会を中心とした有機農業の取組を通じて農業全体の活性化を図り、持続可能な農業の実現を目指しています。

東海農政局は、この宣言を契機に、自然と調和した持続可能な農業の実現と、有機農業の推進を通じた岐阜地域の農業全体の活性化が図られることを期待しています。

山県市オーガニックビレッジ宣言

「子育て応援のまち 山県市」の実現に向けて、有機農業による農産物を市立小学校・市立中学校へ段階的に提供できる体制を構築し、生産者の安定的な供給先として位置づけるとともに、環境負荷を低減した農業の振興を推進します。



オーガニックビレッジ宣言式典での記念撮影

山県市の宣言の詳細はこちら



山県市の有機農業推進に向けた取組事項

【有機農業の生産段階の推進】

- 栽培技術や知識習得のための研修会や先進地ほ場視察等への支援を行うとともに、有機質肥料等の新たな農業生産資材の確保に対する支援を実施することで、有機農業への転換を推進
- 堆肥、有機質肥料等を活用した土づくりや、新たな水田除草機を利用した除草方法などについて、県や関係団体と連携した実証・検証を行い、栽培技術を整理・体系化



【有機農業で生産された農産物の流通、加工、消費等の取組】

- 有機農業米の小中学校給食への段階的な活用
- 環境に配慮した農作物に対する消費者理解の醸成
- 給食以外の流通、販路創出の検討

お問合せ先 生産部 環境・技術課 TEL 052-746-1313

東海農政局の「県拠点」の取組を紹介します

東海農政局では、各県の県庁所在地に「県拠点」を置いています。県拠点では、①農政を現場に伝え、②現場の声を汲み上げ、③ともに解決することを目指して、農業者や地方自治体等を訪問し、また相談などに対応しています。各県拠点での取組の一例を紹介します。

愛知県拠点

高校生と協力して「みえるらべる」をPR



環境にやさしいお米の栽培・販売に取り組んできた県内の高校に、温室効果ガス削減の「見える化」の取組を働きかけ。授業での取組開始後も継続的に支援し「みえるらべる」★3つを取得。商業施設でのイベントにも共同で参加し、みどり戦略・みえるらべるをPR。

岐阜県拠点

水稲収穫量調査の現場説明会を開催

県、農業関係団体などを対象に、刈取調査の手法をほ場で実際に体験してもらう現場説明会を開催。調査公表時の説明会とあわせ、統計手法や算出される数値への理解を深めていただいた。



三重県拠点

農業者のスマート農業への取組を支援

スマート農業機械の導入について相談を受けた農業法人に対し、スマート農業技術活用促進法に基づく「生産方式革新実施計画」の策定を提案するとともに、申請を支援。

認定された計画の概要

- スマート農業技術：収量計測機能付きコンバインを導入し、収量データに基づき肥培管理を実施
- 新たな生産方式：作期の異なる品種の導入や直播栽培体系の導入等に機械の稼働面積を拡大し、収益性を向上



各県拠点では、農業者・消費者・行政関係者等の皆様から、農政に関するご相談やご質問などを受け付けています

お問合せ先 【愛知県拠点 052-763-4492、岐阜県拠点 058-271-4044、三重県拠点 059-228-3151】

「令和7年度 全国麦作共励会」において、東海農政局管内から、 【農家の部】で農林水産大臣賞が選定されました

一般社団法人全国小麦改良協会が実施する「全国麦作共励会」では、国内産小麦の生産技術の向上、経営の改善の面からの創意、工夫を持ち、先進的で他の模範となる麦作農家及び麦作集団を表彰しています。この度、【農家の部】で愛知県西尾市の三矢 浩隆氏が農林水産大臣賞に選定されました。

【農家の部】農林水産大臣賞 受賞者：三矢 浩隆 氏（愛知県西尾市）
小麦単収732kg/10a（きぬあかり）、677kg/10a（ゆめあかり）と多収を実現！



根本農林水産副大臣より賞状を授与される三矢 浩隆氏

三矢氏は、愛知県西尾市一色町において、50haの農地で水稻、小麦・大豆を作付けしています。小麦の作付品種は「きぬあかり」及び「ゆめあかり」で、令和7年産小麦の作付面積は18haです。

スマート農機の活用、排水対策の徹底及び品種特性に応じた適期作業を実施することにより、低コストで高品質かつ多収・高収益の麦作経営を確立しており、令和7年産では、単収が愛知県平均を大幅に上回りました。

また、一部ほ場においては、水稻の作業分散を目的として、乾田直播栽培技術を導入し、播種前に作業機により鎮圧を行うことで、田面が硬く乾きやすい状態とし、水稻作後の小麦作業に速やかに移行できる作業体系を構築しています。

さらに、地域ブランドを目指している「にしお小麦」を担う経営体として、西三河農業協同組合主催の販売促進活動の「新麦キャンペーン」や、食育推進活動の「親子麦刈り体験会」へ参画するなど、「にしお小麦」の普及活動にも積極的に取り組んでいます。

「全国麦作共励会」の地方ブロックにあたる「東海・近畿ブロック麦作共励会」において、「農家の部」で三重県いなべ市の伊藤 祐太氏、「集団の部」で岐阜県海津市の農事組合法人平田ファームが、東海農政局長賞に選定され、表彰式を行いました。

【農家の部】東海農政局長賞
受賞者：伊藤 祐太 氏（三重県いなべ市）
小麦単収 563kg/10a（あやひかり）



東海農政局長賞受賞
伊藤 祐太氏（写真前列中央）

伊藤氏は、令和7年産小麦において、三重県特産品である「伊勢うどん」麺用として需要の高い「あやひかり」を13.6ha作付けるほか、水稻 15.6ha、大豆 10ha、そば2.5ha、ハトムギ 1haを作付け、経営面積42.7haに及ぶ大規模な水田経営を行っています。

また、麦の生産性向上に向けては、スタブルカルチ（粗耕起作業機）の導入による土壌改善と適期作業に加え、自動操舵システム、ドローン、生育予測システムなどのスマート農業技術を導入し、効率的な作業体系を確立しました。

【集団の部】東海農政局長賞
受賞団体：農事組合法人平田ファーム
（岐阜県海津市）
小麦単収 508kg/10a（イワイノダイチ）
440kg/10a（さとのそら）



東海農政局長賞受賞
農事組合法人平田ファームの大橋代表理事（写真前列中央右）

農事組合法人平田ファームは、令和7年産小麦において、「イワイノダイチ」25.0ha、「さとのそら」24.5haの計49.5haを作付し、稲・麦・大豆の2年3作体系を確立し、効率的かつ安定した生産に取り組んでいます。

麦の生産性向上に向けては、排水対策の徹底をはじめ、土壌診断に基づく土づくりや、省力化・効率化を図る作業体系の導入など、麦生産に関わる多様な技術を体系的に取り入れることで、安定した生産体制を確立しています。

また、地域の除草作業や美化活動にも積極的に参加するなど、地域貢献にも積極的に取り組んでいます。

来年3月に開幕！GREEN×EXPO 2027 『地球と。咲きに行こう。』

開催期間：令和9年3月19日（金）から9月26日（日）



横浜市で開催される 2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）まで、いよいよ1年を切りました！

皆さまに楽しんでいただけるよう、会場の準備が着々と進んでいます。

GREEN×EXPO 2027の最新情報は、公式ホームページやSNSで発信中です。

また、東海農政局では、東海地域の花きの魅力などを東海農政局Xで「※ blooming TOKAI ※」として発信し、GREEN×EXPO 2027を盛り上げる取組を行っています。

ぜひチェックしてください🌸

2027年国際園芸博覧会協会ホームページ

会場の見どころ、最新ニュース、チケット情報などを掲載しています。



【公式】2027年国際園芸博覧会 X

最新情報や出展者投稿、イベント情報など、幅広い情報をお届けしています。



農林水産省【公式】GREEN×EXPO 2027 X

農林水産省の省内推進チーム“まふすぼ”の活動やイベント情報などを発信しています。



農林水産省 東海農政局 公式 X

東海農政局から東海地域の花きなどの情報を発信しています。



お問合せ先 生産部 園芸特産課 TEL 052-223-4624

「食育さんぽ 第12回～自給自足を目指すこども食堂」配信中です

東海地域で食育活動に取り組む方々取材して動画で発信する「東海食育さんぽ」の第12回は、岐阜市でこども食堂や学習支援を行う特定非営利活動法人「こどもがセンターマハロ」さんにお邪魔しました。

「こどもがセンターマハロ」では、こども食堂の食材を確保することを目指して、農業へのチャレンジを始めました。農林水産省のYouTubeチャンネル maffchannel で配信中です。



東海食育さんぽ



「東海食育さんぽ」ウェブサイト



関係者へのインタビューでは、こどもたちへの支援の大切さや、農業、食育への想いを話していただきました。また、「こどもがセンターマハロ」の普段の活動風景も取材していますので、ぜひご覧ください。

お問合せ先 消費・安全部 消費生活課 TEL 052-223-4651

【編集後記】学生や農業者、地域の皆さまによる多様な取組から、東海地域の食と農の未来への広がりを感じる号となりました。これからも現場の声を大切に、さまざまな情報を発信してまいります。

<編集> 東海農政局 企画調整室 TEL 052-223-4610

<ウェブサイト> <https://www.maff.go.jp/tokai/>

東海農政局



「食・農びっくあっぷ」ウェブサイト



メールマガジンの登録はこちら



東海農政局公式 X